

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (マネジメント)	氏名 (Candidate Name)	田原 静
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) デジタル・グッズを扱うアクセス型サービスにおける所有の研究 —有形所有物併用の視点から—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	准教授	相馬 敏彦	
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授	原田 隆	
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授	山根 明子 (経済学プログラム)	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	村松 潤一 (岐阜聖徳学園大学)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、近年浸透したデジタル・グッズへのアクセスによる消費を、従来型の有形グッズを介したサービス消費と対比させ、消費者の所有感覚がどのように異なり、その違いが消費対象物に付与する価値にどのような違いをもたらすのかを、主に消費者行動論の視点から検討したものである。本論文の構成は、以下のとおりである。</p> <p>序章では、サービス利用のあり方として、所有型とデジタル・アクセス型の違いに着目する意義を説明した上で、大きく2つのリサーチ・クエスチョンを提示する。第1章では、従来型の有形所有物と消費者の関係性をめぐる先行研究をレビューする。第2章では、近年の消費対象物のデジタル化を踏まえた上で、デジタル・グッズ消費に関する研究動向を紹介する。その後、第3章では、所有物やアクセス消費に関する研究に「断片化された所有」をめぐる議論を加えて、デジタル・アクセス型のサービスにおける所有の特質を整理し、研究のフレームワークを提唱する。第4章では2つのデータセットに基づき、所有型とデジタル・アクセス型の違いに焦点化した分析結果を示す。そこでは、デジタル・アクセス型においても所有の感覚が生じていることを確認した。第5章では、併用型消費者を対象とする分析により、所有の感覚と価値との関連を示し、所有型有形グッズにおける所有の感覚がデジタル・グッズに対する所有感覚に影響している可能性を明らかにした。第6章では、2つの実証研究から得られた知見を整理し、総合的に考察する。終章では、本研究の学術的、実践的な貢献を述べ、さらに限界を踏まえて将来の研究への課題を説明する。</p> <p>本論文は、主に次の3点で高く評価できる。</p> <p>第一に、断片化された所有をめぐる理論的考察を、アクセス型サービスの消費者への多面的調査へと展開し、アクセス型サービスにおいても所有が生じること、ならびに、それが対象物への価値や行動に影響することの実証に成功した点である。第二に、所有からデジタル・アクセスへの移行期と考えられる現代において、それらの両者を併用する消費者の所有をも調査し、その行動や価値との関連を明らかにしている点である。これらの二点は、デジタル・グッズ消費を所有の枠組みから捉えることで、消費者行動研究をサービス・マーケティング研究へと有機的に接続できる可能性を示すものであり、本論文の学術的な意義の高さを物語っている。第三に、所有物ではないアクセス型サービスにおいても、消費者が所有の感覚をもちそれが態度や行動に影響することを示した点で、サービス提供における新たな文脈の必要性を要請しており、実践的な示唆に富む。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士 (マネジメント) の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			
令和 6 年 3 月 4 日			

備考 要旨は, A4版2枚 (1,500字程度) 以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size, 2pages (about 500 words).)